

夜間学校 ニュース

1988年 12月 9日
西成区萩之茶屋2-8-9
旅路の里気付
釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人・中国人の
指紋押なつ拒否断固支持！
定住外国人に市民権を！

仕事の多い状況での

才19回 越冬闘争

二人なに仕事が多いのに、越冬闘争が必要なんて、考えられない。とは、釜に長くいる仲間には、言われない。だが、ひょっとして、まだ新しい仲間、あるいは、ほんとは、運よく、釜に長くいるの、ない仲間が、そんなことを考へるかも知れない。越冬闘争が開始されたのは、万博のおわった一九七〇年の暮れからのことだ。

万博ブームがおわり、仕事が増えた時期だった。石油ショックの後には、年間を通じて越冬闘争をこなすことが必要な状況にあつた。行政、警察、ツブサれた。八十年代の行革の時代には、春のアップし時期から年間の青カンつと追いやられた仲間が増えた。青カンを余裕なくさいている仲間は、今日、ただい

まの釜ヶ崎の状況ではなく、かつての釜ヶ崎の状況によつて、青カンに追いつかぬ仲間が多いことは決して忘れられてはならない。また仕事がいくらあろうとも、それだけの事情というのには存在する。なおいえ、どのような理由があつたにせよ、他人からは、これい、とも、同じ釜で働く仲間が、寒空にふるえているとなれば、なんとかしたくなるのが人情といふものではないか。仕事おわりと女子今、その心がさめられませんかように。

仲間の死
本籍不詳、住所西成区萩之茶屋一六、二十四番地、と46号室、氏名自稱上野石蔵、年齢59歳の男、遺留金品880円、印鑑(上野)、雇用保険日雇労働被保険者手帳(上野)。
右の者は、昭和62年1月16日午前8時40分ごろ、西成区萩之茶屋一六、二十四番地46号室にて発見されたもので、同日午前0時同所において死亡へ死因検査中としたものと思われ、身柄引取人不明につき、検視解剖のうえ北斎場にて火葬された。

みんなで つくろう
みんなの 会館

三人よれば 何とかの 知恵

毎週金曜日
夜七時より
市民館三階
釜ヶ崎夜間学校

よるべのない… お年寄り、障害者



▲ 木枯らしがひとときわ厳しく感じる人たち
にとって「てるこ先生」の人気は抜群だ

労働者の町

横浜・寿町

にふえる

横浜の寿町地区といえば、てきた人の言葉だ。なぜ、社
東京・山谷や大阪・愛隣地区 会的に弱い立場の人たちが集
と同様、自由労働者の町とし まりやすくなったのか。「ほか
て知られる。その町に、最近、 の町」に住めなくなった理由
お年寄りや障害者が増えてき こそ、私たちの町づくりに欠
た、という。「ほかの町が住み かせないものがあるのではな
にくくなって、流れてくるん いのか—そんな思いで、寿
です」。長い間、寿町に住む人 町を愛する人に耳を傾けた。
たちを見守り、ともに暮らし 「この人たちと接して

きて、私自身、生き方が楽 になったような気がする の。余計な干渉はいっさい
ない。なんで寿町へ来た んだ、なんて聞かない。道
路に酔って寝ていても、だ れもけとばしやしない。家
族がなかったら、私だって 寝ちゃおつかうって思うこ
いよ」。

佐伯さんの机の上は、赤 ちゃんや若いカップルの写
真がベタベタ張りつけてあ る。「オレの若いころだよ」
「子どもが生まれたので」
といっちは「てるこ先生」
にプレゼントする。
「増えましたねえ、お年

くらしい。それだけ、老人や 障害者が増えているんでし
ようかねえ」
「ごも受けとめてもらえ ない人たちが住みつく。社
会の底辺に生きる人たちの
「寄せ場」と見られがちだ
が、村田さんにとっては、ひ
とりひとりが魅力的。すご
い存在感がある」という。
「ひとを見なすという
ことが全くない町ですから
ね。そりゃあ、生活は厳し
いですよ。なんて言うのか
なあ、干渉せずに放ってお

大らかさを求めて

厳しい生活でもぬくみが

とあるわよ」

この町の診療所に勤めて 九年「女赤ひげドヤ街に純
情す」という題名の本を出 したこのある医師、佐伯
輝子さん(56)の話だ。「治 療もそうよ。この町の人に
命令してもダメ。医者も仲 間意識を持ってこそわかっ
てもらえるのね。アル中の 患者に「お酒やめなさい」
といてやめやしない。お 酒、やめようよ、って言っ
たことあるの。そんなひと
言が忘れられない」って
言ってくれるんだもの」

家庭



健康保険にも入っていない 患者さんが多い。「生活
に余裕ができたからお返しし ます」という借借書を書い
て「診療代」とする人たち
だが「やさしい人たちが多
のうちの、七百人強が老人で
す。五十代、六十代になっ
てから、寿町に入ってくる
人が多いんですよ」
「私がこの町に来たころ
は、子持ちの世帯が五百五
十世帯、子どもの数は千人
でしたが、いまは百三十人

く、それでいてぬくみのよ
うなものがあるんですよ」
「ゴミの中で暮らしている
としか思えないおじいさん
がいた。「ドヤの幅場(管
理人)がうるさいので、じ
いさんに話して部屋を片づ
けたら、すっかり元気な
しちゃってねえ。思い出す
とつらくなる」そらだ。
「ハッと気がついたんで
すよ。きれいでなければい
けないってことないじゃな
いのかってね。よく、さわ
やか運動とか何とか運動な
んていって、きれいな町づ
くりをやらうとしてます
ね。そんな町に住む人たち
からみると、寿町は全くタ
メな町。町をよくしよう
という意味をよく考えてくれ
ないと、町から追い出され

る人が出てきちゃうんじや
ないかなあ」
「気がねのいらぬ町」
「よく見せようとする気持
ちを必要としない」「精神
障害者だって、ひとりです
パートに入ることのできる
町のように言いますが、仕
事をしたくても仕事がない
現実があるんです。気持ち
のいい人たちが多いで
す。逆に、私たちの生き方
を問い返されているようで
……」

す。おおらかなのが、いま
のお年寄りや障害者の気持
ちにぴったりくるのかもし
れません。寿町を知らない
人は、昼間からブラブラし
ていて……なと怠け者の
町のように言いますが、仕
事をしたくても仕事がない
現実があるんです。気持ち
のいい人たちが多いで
す。逆に、私たちの生き方
を問い返されているようで
……」

寿は、街の大きなでいえば、
釜ヶ崎の三分の一ぐらいいい
ところだろうか。
寿と釜と比べると、たこのの
ほうが生活保護や医療保護が受け
やすいとよく言われる。
そして、街の規模が違うから
な、ことも言われる。

釜の方が人口が多からうとも
同じ福祉の法のもとでは平等な
権利があるはずだ。
ひとえに、行政の姿勢の問題
ということになる。
その姿勢を変えらるるのには、
釜の労働者の団結の力なのだが、